

高宮町川根 藤本悦志さんと安芸高田市地域おこし協力隊の福岡奈織さんの平和への思いをご紹介します。

## 今だから考える 平和の尊さ

川根振興協議会  
藤本 悦志

1998（平成10）年から毎年8月6日の夜に開催してきた「川根平和の灯の集い」昨年、今年と、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止を余儀なくされました。

この集いでは、戦争や被爆体験の語り部や、戦時中に食べられていた芋粥の試食体験、川根小学校児童による平和学習の発表などを継続して行っています。

私も立ち上げ当初から携わっています。毎年、この集いは厳かな雰囲気の中で、平和への思いを地域の人々で共有しています。

私自身40年前、三次から8月6日に広島平和公園到着を目指して実施された「平和のための大行進」へ参加しました。

あの真夏の炎天下の中、多くの仲間たちと平和について訴えて行進したことは、平和・あらゆる差別問題について考えるようになった礎になっており、その後の活動の中で、戦争は最大の差別であることを学びました。

私たちは、人が人として尊重される社会を作っていかなければなりません。学校であったり、職場であったり、地域であったり、家庭であったり。

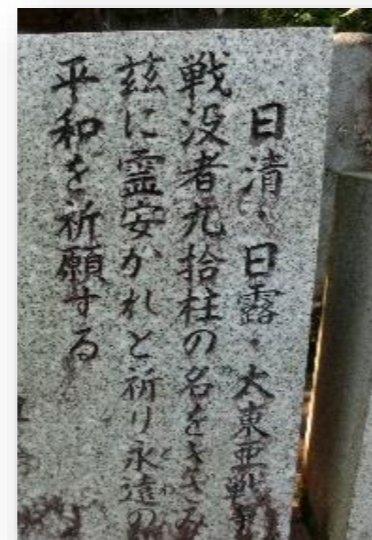
私は、戦争を経験していません。がゆえに、私たちの身近におられる、戦争・被爆を経験された方々の生の声を聞き、語り継ぎ、次世代に繋いでいくことが、今を生きる私たちの責務だと思っています。

そうしなければ、戦争・被爆の惨禍が風化され、あの戦争がまた繰り返されるかもしれません。

そのためにも、小さな取り組みかもしれませんが、ひとり一人が尊重される地域づくりと、「川根平和の灯の集い」を守り続けていきたいと思っています。



毎年行われている「平和の灯の集い」の様子  
(2019年8月6日)



## 多文化共生のための“歴史認識”を学ぶ

こんにちは。安芸高田市地域おこし協力隊の福岡奈織です。

私は、普段は多文化共生推進事業を担当しています。国や地域、宗教、言葉、歴史観など、文化的背景が異なっても、一人一人が大切にされるまちづくりのための支援や、啓発活動を行っています。その中でも”歴史認識”は、私が強く関心を寄せるものでもあります。安芸高田市内でこの夏に出会った”歴史”について書きたいと思います。

### 【中国残留日本人の体験を聞く会】

安芸高田市には、郡山公園の中に「満州開拓団殉難の碑」があります。多くの犠牲者を出したことが刻まれています。7月下旬に、中国残留日本人に関するパネル展と講演会を行いました。この企画は、広島市内を中心に活動する「中国残留日本人の体験を聞く会実行委員会」の皆さんと行いました。パネル展では、満蒙開拓団に関する歴史的背景や、引き上げや残留中の体験談、そして日本に帰国したのちも続く差別や、生活支援についても紹介されました。また、実際に中国に残留したのちに日本に帰国したお二方の体験談を聞きました。お一人は、帰国後吉田町で過ごした方でした。

実際に話をきくまで、正直なところ、時間も距離も遠い話で何が自分に関係するのかピンとこないところがありました。しかし、帰国者の方たちは自分の背景を日本に住み続けている人に理解されず苦しんだと言います。多文化共生に携わる身として、中国残留日本人で帰国された皆さんの背景をもっと知り、彼らもまた自分らしく生きられる社会をつくっていききたいと思いました。



### 【向原町被爆者慰霊碑の前で慰霊祭を行いました】

2021年8月4日（水）、朝8時から向原町の有志で集まり、慰霊祭を執り行いました。実はこれは、一年越しの開催でした。向原町では、2019年に、高齢化等が理由となって「被爆者友の会」（以下、友の会）が解散しました。

2020年12月、友の会の解散を受けて、「何かできることはないか。」と動き出した人たちがいました。せめて、慰霊碑の掃除や、慰霊祭だけでも引き続き行うことはできないだろうか。コロナ禍の中、頃合いを見計らっては集まり、活動について協議し、その中で、夏には慰霊祭を行おうということになったのです。

この度の慰霊祭には、私も実行委員として参加させて頂きました。黙とうをしたのち、参加者皆さんが、それぞれの想いを語りました。実行委員からは、これまでの友の会の



活動に敬意を表し、「これからは、私たちのような次の世代が引き継いでいきます」と挨拶がありました。まるで慰霊碑の前で、さまざまな犠牲者の皆様に見守られながらバトンを受け取ったような時間でした。実行委員会は、胎内被爆者、被爆二世、三世などですが、しかしそんな繋がりに固執せず、広くみなさんに向原でも歴史をつないでいく取組があることを知ってもらい、参加してもらいたいという想いがあります。



# ピースレター



～平和の継承・平和を生きる～

## 【小さな園児たちの大きな取り組み】



毎年、ふなさ保育園、くるはら保育園の園児のみなさんが「折づる」を奉納されています。今回は、ふなさ保育園の取り組みを紹介させていただきます。

今年も暑い中、園児のみなさんが慰霊碑の前に集まってくれました。

2021年8月6日午前10時、安芸高田市立ふなさ保育園 園児のみなさんが、今年も平和を願いそして、心を込め一生懸命折った「千羽鶴」を田園パワッソ前にある原爆慰霊碑に奉納しました。先生に話を聞くと、なんと折り鶴は千羽以上折られ、また、その大部分を園児のみなさんが担い、また、保護者のみなさんの協力を得て、完成したということでした。とてもビックリすると共に、一生懸命に折られた「折り鶴」なんだということが、伝わってきました。



くるはら保育園から届けられた折りづる

今年の4月から折り始めて、完成したのは8月5日、奉納する前日まで長い期間をかけた、折り鶴であると知り、改めて「たまげる」と共に感動しました。

一生懸命に折り鶴を折っている姿を想像してみました。「小さな手で一つ一つ懸命に折られた折り鶴」、その一人ひとりの取り組みを積み重ね束ねた「千羽鶴」、園児のみなさんの取り組みは、私たち大人の責任、「平和を築くための姿勢」を教えてもらった気がします。

一人ひとりの不断の努力なくして、「平和」は築けないことを改めて、確認できた気がします。



## 編集後記

歴史の授業で習った「戦争」は、第二次世界大戦があり、広島・長崎に原子爆弾が投下され、きのこ雲の写真、テストの為に覚えたのは、何年にこの戦争があった、必死で年号を暗記した記憶があります。

でも、私たちが本当に知らなくてはならないのは、原爆が投下された町がどうなって、そこにいた人々がどんな状況になっていたのか、このことだと思うのです。

人権問題について研究している県内中学高等学校の学生が「広島で生きている私たちが、話を聴いて終わり、ではなく実践し、行動を興していきたい」と言われた言葉に、平和な未来を創って行くのはこれからを生きる自分達なのだ、という力強い信念を感じる事が出来ました。そんな彼らを支える大人でありたいと思った8月でした。

酷暑、コロナ感染拡大、災害・・・、大変なことの多い8月でしたが、終戦から76年、皆さんはどのような祈りの時間を過ごされましたか？ 76年と言う時間の経過は、戦争の残酷さ、悲惨さへの社会の関心を薄れさせ、風化すら懸念される現実があります。たかみや人権福祉センターでは、市内で唯一残る「原爆被爆者の会」と連携しながら、薄れゆく戦争への関心と向き合い、市民への呼びかけを続けています。

小さくてもよく、途絶えさせないことが重要で、次世代への平和の継承を様々な視点から考え、地道に行動を興すことが肝要であると考えています。

市内では、平和と向き合う活動が色々と取り組まれています。ささやかではあるが尊いその活動を広く市民の方に知って頂くことにより、共に改めて平和を考える契機としたいと願い、「ピースレター」に託し、発信します。

## 川根から平和のメッセージを発信！！

# 平和への祈り



高宮町川根では、毎年8月6日の夕刻に、「平和の灯の集い」を行っています。様々な行事と同様、昨年、今年と、集いは中止となりましたが、コロナ禍での思いのつなぎ方は、地域の方々に折り鶴を折って頂きそれを戦没者慰霊碑に捧げるという静かな、小さな取り組みでした。



平和記念公園の平和の子の像に捧げられた折り鶴を再生した紙で折りました。保育園、小学校、地域のたくさんの方々の平和を願う思いが込められています。



地域住民によって守り支えられている戦没者慰霊碑。



川根小学校児童代表による「平和アピール」

